

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

お茶大図書館の電子書籍に関する取組事例報告

お茶の水女子大学E-bookサービス・三大学連携PDA実験プロジェクト

お茶の水女子大学附属図書館
館取 直子

2015年11月9日(月)
平成27年度第23回静岡県図書館大会

分科会⑥ 大学図書館
「電子書籍の普及と大学図書館の役割 ～導入・提供・活用の事例から～」



附属図書館学芸学シスターズ
キョウコ・タケシ・ほりちるん

1

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

本日の事例報告は、下記の論文を元にしてしています。
お茶大リポジトリTeaPotから全文をご覧いただけます。

- お茶大図書館発のイノベーション 「お茶の水女子大学E-bookサービス」に見る大学図書館の未来
館取 直子、森 いづみ
「大学図書館研究」 No.101 pp.6-14 2014.12
<http://hdl.handle.net/10083/57706>
- PDAで変わる選書の未来 一千葉大学・お茶の水女子大学・横浜国立大学三大学連携プロジェクトの取組み－
立石 亜紀子、館取 直子、庄司 三千子
「情報の科学と技術」 Vol.65 no.9 pp.379-385 2015.9
<http://hdl.handle.net/10083/57806>

2

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

お茶の水女子大学の概要

今年140周年!

- 1875年(明治7年) 東京女子師範学校開校 開学
- 学生:約3,000名
 - 学部生:約2,000名(文教育学部・理学部・生活科学部)
 - 大学院生:約1,000名(1研究科)
 - 研究生、科目等履修生、聴講生、etc.
- 教職員:約500名
 - 教員:約300名 職員:約100名 附属学校園:約100名
- 同一キャンパス内に様々な世代の学びの場が集結
 - ナーサリー(保育園)、幼稚園、小学校、中学校、高校(女子)

3

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

お茶の水女子大学の理念

- 大学憲章に掲げられた標語
 - 「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとつて、真摯な夢の実現される場として存在する。」
- 附属図書館の理念(2006年制定)
 - 「お茶の水女子大学附属図書館は、時間と空間を超える知的交流の場であり、次世代の知を創造し発信する学術情報基盤として機能する。」

4

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

お茶大図書館改革の3つの柱

2007年～

- 空間機能
 - ラーニング・commonsの設置(情報基盤センターとのコラボレーション)
 - キャリアカフェの設置(学生・キャリア支援センターとのコラボレーション)
- 蔵書・コンテンツ
 - 学生用図書の充実(21世紀型リベラルアーツのテーマに応じた多彩な資料)
 - 研究用コンテンツの充実
- 人的支援
 - 図書館サポーターを組織(図書館ファンから図書館サポーターへ)
 - LISA:Library Student Assistant (2007～)
 - ラーニング・commonsにサポートデスクを配置
 - LA(Learning Adviser)からLALA(Library Academic Learning Adviser)へ (2014～)

+ 研究支援として、本学の情報発信力をサポートし、研究・教育成果を社会に還元する「お茶の水女子大学E-bookサービス」をスタート(2012.3～)

5

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

お茶の水女子大学E-bookサービス

- お茶大機関リポジトリ「TeaPot」の仕組みを利用した出版事業。
- 教職員、学生による教育・研究成果の出版を支援。
- 本文データをTeaPotに搭載し、電子書籍としてE-bookサービス専用サイトから無料公開。(ISBNも付与)
- 希望者にはオンデマンド出版で有償販売。



出版会を持たない小規模な大学でも図書出版が可能であること、大きな負担増なく出版事業を実現していること、商業ベースでは困難と考える図書の出版・流通を可能としたことなどを評価され、平成25年度国立大学図書館協会賞を受賞!

6

お茶の水女子大学附属図書館
Obchamottei University Library

お茶の水女子大学 E-book サービス

PDFで本文を閲覧、ダウンロードできる。
利用のしやすさを考慮し、紙の書籍のように見開きで表示。

7

お茶の水女子大学附属図書館
Obchamottei University Library

お茶の水女子大学E-bookサービス

2015年10月現在の出版実績：8点

分野、形態もさまざまで、お茶大の研究の多様性が現われたラインナップ。

- 『近世日本の儒教思想—山崎闇斎学派を中心として』(2012.03)
高島元洋編著・大久保紀子・長野美香著
- 『古今和歌六帖全注釈 第一帖』(2012.03)、『第二帖』(2014.06)
古今和歌六帖輪読会(代表：平野由紀子) 著
- 『Javaプログラミング入門』(2013.10) 伊藤貴之著
- 『体重管理のためのカード教材「ベストアドバイザー FOR ダイエット」』(2014.01)
赤松利恵、新保みさ、玉浦有紀作
- 『お茶大Phoneの使い方 1巻』(2014.03)、『2巻』(2014.03)
石田千晃、青砥早希、五島杏奈 作 / 横山美鶴 イラスト
- 『王安石及び宋詩別裁 五言絶句訳注』(2015.03) 益詩の会(代表：和田英信) 著

8

お茶の水女子大学附属図書館
Obchamottei University Library

お茶の水女子大学E-bookサービス

- 誕生のきっかけ
2009年当時の附属図書館長の「(大学の中には)世の中に出したいと思っているけれど引き受ける出版社とめぐり会わずに埋もれている原稿があるはずだ」という発言
- サービスを支える体制
図書・情報課リポジトリ担当：著者とのやりとり、TeaPotへの搭載、E-bookサービスページの作成等の実務 ※**編集権は無い**
お茶の水女子大学E-bookサービス委員会：出版可否等の審議
特定非営利活動法人お茶の水学術事業会：オンデマンド印刷販売

9

お茶の水女子大学附属図書館
Obchamottei University Library

お茶の水女子大学E-bookサービス

出版までのプロセスは…

このプロセスで出版物の質を確認

著者が、附属図書館と事業会に著作の利用を許可するという契約。著者の権利を最大限確保している。

原則としてPDFで完成原稿を提出していただく。体裁やデータ作成時のアドバイスや校正業者の紹介などのサポート。

10

お茶の水女子大学附属図書館
Obchamottei University Library

お茶の水女子大学E-bookサービス

- 従来の出版モデルとの相違点
 - ・著者の権利 → 最大限確保
 - ・原稿料なし → 自費出版の際にかかる制作費も不要
 - ・出版在庫なし → 出版はオンデマンド
 - ・書店での流通なし → 口コミ、SNSで拡散
- コスト
 - ・サービススタート時、ISBNを100冊分購入(3万円弱)
 - ・TeaPotサーバーの維持費(E-bookサービスとは関係なく必要な経費)

11

お茶の水女子大学附属図書館
Obchamottei University Library

お茶の水女子大学E-bookサービス

- 成果

著者	・大学からの出版という形で、ISBNを付与された図書として、著作を公開できる。 ・著作権の譲渡はないため、出版後も自由に著作物を利用できる。
読者	・無料で学術書を利用できる。 ・全文検索ができる。
図書館	・真摯に学問に向かう著者と接することで、研究者の研究活動、出版過程、学術情報流通に対する理解を深めた。 ・著者からの図書館と図書館員の役割に対する理解と信頼を深めた。
大学	・大学のブランド力の向上。 ・情報流通の促進、情報格差の是正、基礎研究の進歩を促進するなど社会貢献。

- ・平成25年度国立大学図書館協会賞
- ・文部科学省「大学における先進的な取り組みの実践例」(平成25年8月)

12

お茶の水女子大学附属図書館
Okazaki University Library

お茶の水女子大学E-bookサービス

- E-bookサービス担当となって
- ・利用者として接していた教員は、情報の発信者でもある。
- ・いわゆる編集者にはなれないが、出版事業に携わっている以上、ある程度の知識は必要。
- ・知が生み出される現場を見られる喜び。
- 今後に向けて
- ・グローバル化、サポート力の強化、etc.

13

お茶の水女子大学附属図書館
Okazaki University Library

千葉大学・お茶の水女子大学・横浜国立大学三大学連携 電子書籍PDA実験プロジェクト

千葉大学・お茶の水女子大学・横浜国立大学三大学連携

- ・2014年3月、三大学の学長が図書館間連携の申し合わせを取りまとめた。
- ・単独大学では不可能な課題解決手法の開発・実験に取り組んでいる。
- ・課題の1つとして、電子資料の共同購入の検討を開始。
→ 2015年4～9月、丸善の協力を得て、和書の電子書籍購入のためのPDA実験プロジェクトをスタート。
(共同購入ではない)

14

お茶の水女子大学附属図書館
Okazaki University Library

PDA実験

和書電子書籍に関する三大学の課題

「書架狭隘化対策のためにも和書電子書籍を購入したい」

- ・現状あまり利用されていない。
- ・過去に実施した学生へのヒアリングでは紙媒体を好む学生が多数を占めていた。
- ・洋書電子書籍と異なり、タイトルごとに販売。
- ・冊子に比べて単価が高い。
- ・書架でのブラウジングができないため発見されにくい など

選書に充てる時間や費用対効果を考えると積極的に選書しにくい状況

15

お茶の水女子大学附属図書館
Okazaki University Library

PDA実験

PDA=Patron-Driven Acquisitions
利用者主導型購入方法

- ・選書にあたり、利用者の要求を反映するかたちで購入書籍を決定する方法
- ・電子書籍のPDAの場合、ある期間、利用者が電子書籍コレクションを利用できるような状況を作り、その期間に一定のアクセス(利用)が認められたタイトルを購入するしくみ。
- ・米国では実績があるが、和書の電子書籍ではまだ事例がない。(2015年10月現在)

16

お茶の水女子大学附属図書館
Okazaki University Library

PDA実験

実験の概要

- ①各大学で、PDA実験で購入する予算を確保。
- ②Maruzen eBook Libraryのプラットフォーム(*)から実験の趣旨に賛同した出版社のタイトルのフルテキストにアクセス可能な状態にする。(約4,000タイトル)
- ③各大学で、上記タイトルをOPACに搭載。実験開始。(2015年4月～)
- ④丸善は、実験期間中、定期的にフルテキストのアクセス統計を各大学に送付。
- ⑤各大学は、月締めで規定のアクセス数に達したタイトルを購入。予算上限に達するまで毎月繰り返す。(最長9月まで)

※実験用にサイトを構築することはコスト的に困難であると判断し、既存のプラットフォームをそのまま利用

17

お茶の水女子大学附属図書館
Okazaki University Library

PDA実験

結果

	実験期間	利用回数	利用タイトル数	実験で購入したタイトル数	実験以前から購入していたタイトル数
お茶大	4/30-6/12	423	202	37	21
	8/1-9/30	250	175	10	
		673	377	47	
千葉大	4/1-8/31	1,987	955	169	913
横国大	4/1-5/30	926	460	49	254

18

PDA実験

分析・考察

- ・広報の成果もあるだろうが、購入済みタイトルを含めた電子書籍へのアクセス数が大幅に増加。
利用可能タイトルが4,000タイトル増えたことで、発見可能性、入手機会が増加し、利用促進につながったのではないか。
 - ・早朝や深夜など、閉館時間にも利用されていた。
 - ・図書館職員が意図しない需要の掘り起しができた。
- PDAによる選書の有効性は確認できた。

19

PDA実験

課題

- アクセス数と購読決定との関係
 - ・購入に至るアクセス回数の設定は妥当だったか？
 - ・アクセス回数＝肯定的評価とは限らない。回数だけで判断して良いのか？
 - ・同一IPアドレスからの複数アクセスをどう捉えるか
- コンテンツ
 - ・このままのタイトル数では必要なものは買い切ってしまう。
 - ・従来大学図書館で購入してこなかったような資料(就職関係のマニュアル類)も実験対象に含まれていた。(ニーズがあることは分かったのは良かった)

20

PDA実験

今後の予定

- ・実験結果を今後の電子書籍選書に活かす。
- 結果の分析と検討結果について丸善に報告、提案。
PDA実験購入タイトルの今後の利用動向をウォッチ。

21

ご清聴ありがとうございました！



22